

産業競争力会議 実行実現点検会合 (改革2020)

観光立国のショーケース化

平成27年12月24日

観光立国のショーケースの募集について

意義・目的

- 1. 多様な観光資源のポテンシャルを活かした**世界に通用する魅力ある観光地域**づくりの実施
- 2. 訪日外国人旅行者を**地方へ誘客するモデルケース**の確立

「日本再興戦略」改訂2015（平成27年6月30日閣議決定）

応募主体

応募方式により、**地方都市**（原則として単独の市町村）を1～2カ所程度選定。※地理的・歴史的に密接な複数の市町村の共同応募も可。
なお、応募に当たっては、以下の①～⑥の目安を満たすことが望まれる。（ただし、①は必須事項。）

①日本版DMO【必須事項】

選定後、日本版DMOが速やかに形成される予定の地域であること。

②モデルケース性 1)～3)のいずれかに該当する都市であること。

1) 既に多くの訪日外国人旅行者を誘客しているが、更なる高みを目指し、不断の取組を行う意欲・能力を備える都市

2) 観光資源や立地条件に恵まれ、訪日外国人旅行者のトップランナーに成り得る潜在能力を有する都市

3) 空港のコンセッション等新たな政策的取組により、今後、訪日外国人旅行者の大幅な増加が見込まれる都市

③人口規模

人口概ね10万人程度以上の都市であること。
（ただし、人口を上回る外国人宿泊者数（人泊／年）がある、人口 概ね5万人程度以上の都市も含む。）

④外国人延べ宿泊者数

概ね5万人泊／年程度以上の都市であること。

⑤地域

ゴールデンルート上（東京・名古屋・京都・大阪周辺）に位置する都市でないこと。

⑥観光資源

地域資源、食、文化財、環境などについて、多様な観光資源を有していること。

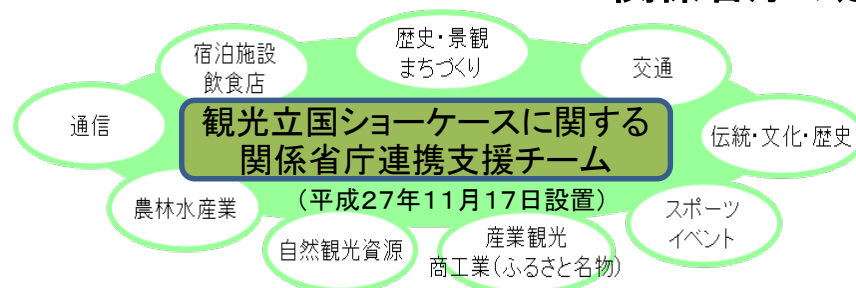
募集期間

平成27年11月19日（木）～平成27年12月14日（月）

観光立国のショーケースにおける取組と支援

関係省庁の施策の集中投入

関係省庁の連携を強化し、地域の取組を強力に支援



- 関係省庁の支援の重点実施
- 地域からの相談へのワンストップ対応
- 支援メニュー集の策定
- 現場の課題やニーズの共有、対応 等

選定した地方都市

日本版DMOの確立

- 観光地づくり等の舵取り役として、
 - (i)関係者の合意形成
 - (ii)マーケティング等に基づく戦略策定
 - (iii)各種事業のマネジメント等を行う日本版DMOを確立する。

観光資源の磨き上げ

- 訪日外国人旅行者に売り込めるコンテンツとして徹底的に磨き上げ、満足度の高い滞在プログラムとして提供する。

ストレスフリーの環境整備

- 訪日外国人旅行者が快適・円滑に滞在・周遊を楽しむための環境整備を行う。

海外への情報発信

- 地域の魅力を積極的に発信することにより、
 - ・地域の観光需要の増加
 - ・地域産品の販路開拓等を図る。

2020年

多くの外国人旅行者に選ばれる
観光立国を体現する観光地域

【シーン2】東京ユニバーサルデザイン・ショーケース

2020年にショーケース化する具体的な成果イメージ

2020東京オリパラが開催される東京(※)において、

- 先進的な施設を含めバリアフリー化を集中的に実現
- 高齢者や訪日外国人等にやさしい幅広いユニバーサルデザイン、ICTを活用した情報案内等をシンボリックに現出、ショーケース化
- 他の先進国等に先駆けて超高齢化が進む我が国のベストプラクティスを内外にアピール

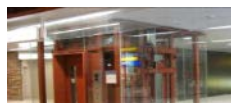
※成田・羽田空港ターミナル、主要ターミナル駅、大会競技施設までのルート及び最寄り駅、東京の人気観光スポット及び最寄り駅等を結ぶ連続的なエリアを想定

プロジェクトの主な取組み

<公共交通機関等におけるバリアフリー化>

(1) 公共交通機関の旅客施設

- エレベーター、ホームドア等



段差解消率(鉄軌道駅)
2014年度末:85%
→2020年度:約100%



ホームドアの設置数
2014年度末:615駅
→2020年度:約800駅

(2) 公共交通機関の車両

- リフト付バス、UDタクシー等

UDタクシー等専用レーン
設置(9月14日)

羽田空港・東京駅



福祉タクシー車両
2014年度末:14,415台
→2020年度:約28,000台



実証運行(本年度中)
羽田空港・成田空港
発着路線

羽田空港・成田空港

リフト付バス等
2014年度末:6%
→2020年度:約25%

(3) 道路、都市公園、路外駐車場、建築物



オリパラ競技会場における
建築設計標準策定
(7月17日)

特定道路における
バリアフリー化率
2013年度末:83%
→2020年度:約100%

<心のバリアフリー>

- 公共交通事業者の職員教育を通じた接遇の向上等



「バリアフリー教室」の
全国各地(10ブロック)での開催
(今年度81回)

ベビーカー利用の円滑化を促す
キャンペーン実施(5月)
協議会開催(11月16日)

<分かりやすい案内表示の推進>

- (1) デジタルサイネージによる使用言語等の属性に応じた情報提供機能の拡大の検討

- デジタルサイネージ



災害情報等の一斉配信及び言語等の個人の属性に応じた情報提供等の実現に向けたデジタルサイネージの標準仕様を2015年度末に策定予定。また、属性に応じた情報提供等を可能にするため、クラウドを活用したサービスの連携について検討を開始

(2) 案内表示の統一化、ピクトグラムの新規作成

- ピクトグラムの統一、新しいピクトグラムの検討



東京駅での連続的な誘導案内について調査・検討
サインシステムのモデル的な構築を実施(本年度中)

オリパラに向けたピクトグラムのあり方についての検討会(交通エコモ財団)に参画

(3) ICTを活用した歩行者移動支援サービスの導入等

- ICTを活用した歩行者移動支援サービス



「高精度測位社会プロジェクト検討会」を設置(8月21日)
東京駅周辺でのナビゲーション実証実験の実施(2016年1月中下旬~3月上旬)

「歩行者移動支援に関するデータサイト」を開設(7月21日)
地方公共団体向けガイドラインを公表(9月30日)

観光立国のショーケース化 ②東京 取組状況について(2015年度)

(場所/事業主体)

2015年度

○バリアフリーWGとりまとめ(8月21日)

○オリ・パラに向けたバリアフリー化調査

(羽田・成田空港～信濃町駅、国際展示場駅等、競技会場周辺駅/国交省、東京都、鉄道事業者、空港事業者等)

→主要ターミナル駅等の連続的なバリアフリー化のあり方について、10月30日に検討会を設置。●公共交通機関におけるバリアフリー調査・検討
12月のモニター調査、第2回(1月7日予定)・第3回検討会を経て2015年度末にとりまとめを行う



検討結果
とりまとめ

○その他

・オリパラ競技会場における車いす使用者席などを含む建築設計標準策定(7月17日)

(国交省等)

・ユニバーサルデザインタクシー等専用レーン設置(9月14日)

(羽田空港国際線ターミナルと東京駅/国交省、タクシー事業者等)

・リフト付きバスの実証運行(本年度中)

(羽田空港・成田空港発着路線/国交省、バス事業者等)



●競技会場における車いす使用者席



●UDタクシー



●リフト付きバス

○公共交通事業者の職員教育を通じた接遇の向上・一般国民に対する普及・啓発活動

(全国/国交省、文科省、東京都、交通事業者等)

→高齢者・障害者等の疑似体験等を通じ、バリアフリー整備の意義・重要性について理解を促す「バリアフリー教室」の全国10ブロックでの開催(今年9月末までに81回)の他、公共交通機関等におけるベビーカー利用の円滑化を促すキャンペーンの実施(5月)や、第6回協議会(11月16日)での議論を通じて今後の取組について検討。



●バリアフリー教室における車いす疑似体験

○デジタルサイネージによる使用言語等の属性に応じた情報提供機能の拡大の検討

(東京/総務省、国交省、東京都、交通事業者等)

→2020年に向けた社会全体のICT化推進に関する懇談会デジタルサイネージWGにおいて、災害情報等の一斉配信及び言語等の個人の属性に応じた情報提供等を実現するための標準仕様を2015年度末に策定予定。

●多言語対応
デジタルサイネージ



標準仕様
策定予定

○案内表示の統一化、ピクトグラムの新規作成等に向けた調査

(東京/国交省、経産省、東京都、交通エコモ財団、交通事業者等)

→オリパラに向けたピクトグラムのあり方について交通エコモ財団による検討会に参画する他、東京駅での連続的な誘導案内(サインシステム)について9月に調査を開始し、モデル的な構築を本年度中に行う。

●ピクトグラム



Vegetarian food

検討結果
とりまとめ

○ICTを活用した歩行者移動支援サービスの導入等

→8月21日に「高精度測位社会プロジェクト検討会」を設置し、屋内外の電子地図等の整備・活用の促進に向けた検討を行うとともに、東京駅周辺での先行的な携帯端末を使用したナビゲーション実証実験(2016年1月中下旬～3月上旬予定)の実施に向けた調整を実施中。(東京駅/国交省、東京都、鉄道事業者、空港事業者等)

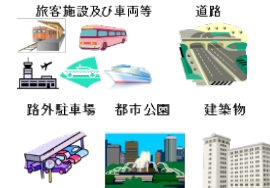
→7月21日に「歩行者移動支援に関するデータサイト」を開設すると共に、9月30日に地方公共団体向けガイドラインを公表済み。(国交省、関係省庁、民間団体等)

●ICTを活用した
歩行者移動支援サービス



観光立国のショーケース化 ②東京 取組状況について(2016年度以降)

(場所/事業主体)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
公共交通機関等におけるバリアフリー化	○2015年度のバリアフリー化調査の結果等を踏まえ、空港からのアクセスルート、競技会場周辺、主要ターミナルや観光スポットにおける面的・一体的なバリアフリー化の推進 (羽田空港・成田空港～競技会場/国交省、東京都、交通事業者等) ●超高齢社会のショーケースとなるようなユニバーサルデザイン先進都市・東京の実現  ●空港と都内等を結ぶ舟運のバリアフリー化 ●リフト付きバス、UDタクシーの更なる普及 ●臨海部と都心とを結ぶBRTの整備	○引き続き、主要なアクセスルートのバリアフリー化を推進するとともに、バリアフリー法の整備目標の着実な達成を目指す。  旅客施設及び車両等 道路 路外駐車場 都市公園 建築物				東京大会
心のバリアフリー	○一般国民に対する普及・啓発活動 (全国/国交省、文科省、東京都、交通エコモ財団、交通事業者等) →副教材(ガイドブック)を作成し学校教育への展開(全国1万部配布予定)や、当事者参画によるセミナー・キャンペーン等を開催(2回予定)し、国民的運動の気運を醸成する。  ●副教材の作成	○心のバリアフリーに関する国民的運動の展開 →2020年に向けて国民的運動を推進し、高齢者・障害者等に対して市民が手助けする文化を醸成 				
分かりやすい案内情報提供の推進	○デジタルサイネージの普及 (東京/総務省、国交省、東京都、交通事業者等) →訪日外国人等に対して、スマートフォンや交通系ICカード、デジタルサイネージ等を活用し、個人の属性(言語等)に応じた情報提供を実現するための共通クラウドプラットフォームの機能検証等を実施。 ○作成したピクトグラムのJIS登録に向けた調整 (東京/国交省、経産省、東京都、交通エコモ財団、交通事業者等) ○情報提供・案内の充実に向けた調査研究 (東京/国交省、経産省、東京都、交通エコモ財団、交通事業者等) →視覚・聴覚障害者、外国人等の情報制約者に対応した情報提供・案内の充実に向けた調査・検討を実施。  ●磁気ループシステム	・共通クラウドプラットフォームによる検証・相互接続の実現。 ・国際標準化活動を実施 デジタルサイネージやクラウド等を活用した情報発信等の実現				
		○ICTを活用した歩行者移動支援サービスの導入 等 (オリパラ会場周辺/国交省、関係省庁、地方公共団体、民間団体、交通事業者等) →前年度の実証・検討成果を踏まえた、更なるサービス向上に向けた実証(空港、競技場、主要駅等)・検討の実施や東京オリパラ2020大会会場周辺地域における試行的なオープンデータ環境の整備等により、民間事業者等が多様な歩行者移動支援サービスを提供できる環境を整備。	○2015年度、2016年度の調査結果等を踏まえ、ピクトグラムやデジタルサイネージを活用した新しい案内表示の導入支援 			
		○バリアフリールートの情報提供の充実 ・ICTオープンデータプラットフォームの構築 ・各省施策の連携によるプレサービスの実現				

【シーン3】 成田空港・羽田空港ショーケース

2020年にショーケース化する具体的な成果イメージ

- 訪日外国人の受入れ玄関口である国際空港でのおもてなしによる空港ショーケースの実現
- 成田空港・羽田空港の利便性・快適性等を向上させることによって、空港としての魅力向上が期待
- ひいては、その他の国際空港にも波及するように努める。

プロジェクトの主な取組み

〈ストレスフリー等の取組〉

●無線LANの整備促進

- ・主要観光拠点等への無料公衆無線LAN環境の整備促進

重点整備箇所のリスト化を行い、2015年度末目途に取りまとめ予定
「無料公衆無線LAN整備促進協議会」で共通シンボルマーク(Japan.Free Wi-Fi)を策定

無料公衆無線LANの利用開始手続きの簡素化・一元化に係る実証実験を本年度内に実施予定

●多言語対応

- ・スマホ・タブレット端末等を用いた多言語音声翻訳システムの活用

【出典】成田国際空港ホームページ

2015年8月より多言語音声翻訳システムの更なる精度向上の研究開発を開始。
対応言語と翻訳精度を向上させた翻訳アプリ「VoiceTra」の最新版を10月に公開

●鉄道

〈空港アクセスの改善〉

- ・より質の高い東京圏の都市鉄道ネットワークを構築していく観点から空港アクセスの改善を図る
- ・空港アクセス関連駅等のバリアフリー化推進

「交通政策審議会」において東京圏における今後の都市鉄道のあり方についての検討を行い、2015年度末目途に取りまとめ予定



【エレベーター】



【駅のホームドア】

●バス

- ・国家戦略特区の枠組みによる規制緩和を通じた空港バスアクセスの更なる充実
- ・深夜早朝時間帯におけるバスアクセスの利便性向上

羽田空港において、10月からの2015年航空冬ダイヤに合わせ、深夜1時台の運行に加え、深夜2時台を増便するなど、更なる充実に向けた取組を実施

- ・リフト付きバスの導入に向けた検討

- ・アクセス関連情報提供の改善

成田空港の到着ロビー内において、各交通機関の運行情報等を一元的に表示する「交通アクセス情報総合ナビゲーション・デジタルサイネージ」を設置

AIRPORT



※空港アクセスルートのバリアフリー化は
東京ユニバーサルデザイン・ショーケースと連動して取組む

〈空港をゲートウェイとした情報発信〉

- デジタルサイネージによる情報提供機能拡大
・デジタルサイネージによる待機時間中の情報発信

災害情報等の一斉配信及び言語等の個人の属性に応じた情報提供等の実現に向けたデジタルサイネージの標準仕様を2015年度末に策定予定。
また、属性に応じた情報提供等を可能にするため、クラウドを活用したサービスの連携について検討を開始



【デジタルサイネージ】

- ロボットの活用

- ・搬送ロボットや清掃ロボットなどの多様なロボットがサービスを提供する姿を世界に発信
- ・安全基準などロボット活用に係るルールの整理・検討

ロボット革命イニシアティブ協議会にロボットイノベーションWGを9月に設置し、ロボット活用に係るルールを検討
(2016年前半に中間とりまとめ予定)



【ロボット活用イメージ】

- 世界最先端のトイレの発信

- ・世界最先端のトイレやユニバーサルデザインのトイレを広く発信
- ・トイレの質の向上に向けた普及・啓発

9月4日に開催した「日本トイレ大賞」において、成田空港・羽田空港が国土交通大臣賞を受賞。
関係者で構成する協議会を6月から開催。誰もが安心して使える安全で清潔なトイレ等について検討し2015年度末にとりまとめ予定



【成田空港 GALLERY TOTO】
※「日本トイレ大賞」国土交通大臣賞受賞
(出典:TOTOホームページ)

観光立国のショーケース化③成田空港・羽田空港 取組状況(2015年度)

(場所/事業主体)

	2015年度
ストレスフリー等の取組 (無線LAN・多言語対応)	○無線LANの整備促進・多言語対応 (成田空港・羽田空港等/総務省、関連民間事業者等) →「2020年に向けた社会全体のICT化推進に関する懇談会」や「無料公衆無線LAN整備促進協議会」を活用し、無線LANについては、外国人の動線における主要な観光拠点等への無料公衆無線LAN環境の整備を促進。また、公共的な観光拠点等の重点整備箇所をリスト化し、2015年度末目途に取りまとめ予定。利用開始手続きの簡素化・一元化や訪日外国人旅行者に対する公衆無線LANを通じた災害情報を提供する仕組み作りの取組等を推進。また、多言語対応について、多言語音声翻訳システムを社会に普及させるために必要な技術の研究開発を開始するとともに、病院、タクシー、観光地等での技術実証を実施。対応言語と翻訳精度を向上させた翻訳アプリ「VoiceTra」の最新版を10月に公開
空港アクセスの改善 (鉄道・バス)	○空港アクセスの改善 (成田空港・羽田空港等/国交省、交通事業者等) →交通政策審議会において、東京圏の今後の都市鉄道のあり方について検討を行い、2015年度末を目途に取りまとめを行う。 国家戦略特区(東京圏(注))の枠組みにおける規制緩和を通じ、空港アクセスバス事業の充実に取組む。 (注)東京都、神奈川県、千葉県成田市 また、深夜早朝時間帯における空港と都心ターミナル駅等を結ぶバスアクセスの更なる充実(10月からの2015年航空冬ダイヤに合わせ、深夜1時台の運行に加え、深夜2時台の増便等を実施)や空港利用者へのアクセスに関する情報提供の改善(各交通機関の運行情報等を一元的に表示する「交通アクセス情報総合ナビゲーション・デジタルサイネージ」を設置)などに取り組む。 検討結果 とりまとめ
空港をゲートウェイ とした情報発信 (デジタルサイネージ・ロボット活用・世界最先端のトイレ)	○デジタルサイネージによる使用言語等の属性に応じた情報提供機能の拡大の検討 (成田空港・羽田空港等/総務省、関連民間事業者等) →2020年に向けた社会全体のICT化推進に関する懇談会デジタルサイネージWGにおいて、災害情報等の一斉配信及び言語等の個人の属性に応じた情報提供等の実現するための標準仕様を2015年度末に策定予定。 また、属性に応じた情報提供等を可能にするため、クラウドを活用したサービスの連携について検討を開始 標準仕様 策定予定 ●多言語対応デジタルサイネージ ○ロボットの活用 (成田空港・羽田空港等/経済産業省、関連民間事業者等) →ロボット活用に係る民間事業者等で構成されているロボット革命イニシアティブ協議会にロボットイノベーションWGを9月に設置。同WGに設置したSWGにおいて安全基準などロボット活用に係るルールを整理・検討し、ショーケース化に向けて関係事業者等との連携を進めている。月1度のペースでSWGを開催。2016年前半に中間とりまとめ予定。 ○世界最先端のトイレ (成田空港・羽田空港等/内閣官房、国交省、関連民間事業者等) →9月4日に開催した「日本トイレ大賞」において、成田空港・羽田空港が国土交通大臣賞を受賞。 世界最先端のトイレやユニバーサルデザインのトイレを広く発信。 また、関係者で構成する協議会を6月から開催し(第1回・6月12日)、誰もが安心して使える安全で清潔なトイレ等について検討し、2015年度末にとりまとめを行う予定。 ●成田空港 GALLERY TOTO (出典:TOTOホームページ) 検討結果 とりまとめ

観光立国のショーケース化③成田空港・羽田空港 取組状況(2016年度以降)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
ストレスフリー等の取組 (無線LAN・多言語対応)	○無線LANの整備促進・多言語対応 (成田空港・羽田空港等/総務省、関連民間事業者等) →ICTを活用した訪日外国人旅行者拡大に向けた環境整備の促進 ・多言語音声翻訳技術の研究開発及び社会実証を実施 ・無料公衆無線LANの整備促進 ・官民連携した無料公衆無線LANの周知広報 ・無料公衆無線LANの利用開始手続きの簡素化・一元化等や公衆無線LANを通じて災害情報を提供する仕組みの利活用の促進を推進	・多言語音声翻訳技術が高精度に翻訳可能な言語を10言語に拡大	・翻訳精度を向上させるとともに、多様な翻訳サービスやアプリケーションの創出を可能とするクラウド型翻訳サービスプラットフォームを確立し、大規模社会実証を実施。2020年に多言語音声翻訳システムの社会実装を目指す。		
空港アクセスの改善 (鉄道・バス)	○空港アクセスの改善 (成田空港・羽田空港等/国交省、交通事業者等) →2015年度の交通政策審議会における東京圏の今後の都市鉄道のあり方についてのとりまとめを踏まえ、空港アクセス関連駅等におけるバリアフリー化等について推進する。 ※東京ユニバーサルデザインショーケースと連動して取組む。 国家戦略特区(東京圏(注))を通じたバスアクセスの更なる充実に引き続き取組む。 また、羽田空港の深夜早朝時間帯におけるバスアクセスの更なる充実にに向けた取組みを進める。(注)東京都、神奈川県、千葉県成田市	空港アクセス関連駅等におけるバリアフリー化等について推進する。 バスアクセスの更なる充実に引き続き取組む。			東京大会
空港をゲートウェイ とした情報発信 (デジタルサイネージ・ロボット活用・世界最先端のトイレ)	○デジタルサイネージの普及 (成田空港・羽田空港等/総務省、関連民間事業者等) →訪日外国人等に対して、スマートフォンや交通系ICカード、デジタルサイネージ等を活用し、個人の属性(言語等)に応じた情報提供を実現するためのクラウドプラットフォームの機能検証等を実施。	・共通クラウドプラットフォームによる検証・相互接続の実現。 ・国際標準化活動を実施			
	○ロボットの活用 (成田空港・羽田空港等/経産省、関連民間事業者等) →2015年度に引き続き、ロボット革命イニシアティブ協議会ロボットイノベーションWGにおいて、安全基準などロボット活用に係るルールを検討。2016年前半にとりまとめ予定。上記ルールに基づくユースケースについて2016年後半を目途に公募開始予定。 ○世界最先端のトイレ (成田空港・羽田空港等/国交省、空港会社等) →協議会での議論を踏まえ、トイレの質の向上に向けた普及・啓発を行う。	デジタルサイネージやクラウド等を活用した情報発信等の実現 公募 ・実装 ・PDCAによるルール改訂 ロボットの随時公募活用 ユニバーサルデザインを取り入れたトイレ等の環境整備を促進			